

短歌

北国の思い出

元美唄歯科医師会副会長 石原 利男

北国の春は寂しも声あけて凧あぐ
幼等雪に立ちをり

我等住む美唄の冬は春遠し眞白く
雪は降り積りたり

故郷を遠く離れて来しものか蝦夷
富士に向いて何か寂しき

駅に居て蝦夷の訛りを聞く夕べ
静かに雪は降り続きをり

十年余り勤め住みにし炭山を去る
感深けれど静かにあらむ

見送りの人のうしろに靡びきける
美唄原野の一ひらの雲

讃岐路にいくつか春を迎えたり
哭くかに偲ぶ北国の空

昭和二十三年以来十年に余る歳月を過した、北の国北海道を偲びつつ思い出のいくつかの短歌を書き印しました。道歯会員の皆さんのご健闘をはるかに四国から、お祈りします。